

「夏の研修会」報告

2013年6月2日(日)に支部定期総会に引き続き恒例の「夏の研修会」を開催いたしました。



講師には、楊慧副理事長をお招きし、約260名の支部会員が参加して、講話に引き続き2班に分かれて慧先生の指導の元百花拳を会場いっぱいの大きな円陣で演舞し確認しました。



< 講話要旨 >

楊名時師家が亡くなりましてから、毎年、この時期に奈良県支部にお招きいただき、本当に光栄に思っています。関西は特に縁の深いところで、父、楊名時師家が日本に留学し学んだ場所が京都です。そして母は京都の人で、私が幼い頃、京都の祖父母のところによく行きました。

母は大変好奇心が強く、言葉は分からなくてもいろんな国に出かけ、生き急ぐようにして 63 歳で亡くなりました。思い返すと母からは、「礼儀作法、芸術、本、絵画、能、歌舞伎や伝統芸能など長い時間をかけて伝わってきたものは良いものであり大切にしなければいけない。そしてそういうものに触れなければいけない」ということを教わりました。母は桃の節句には雛人形の絵を描いて飾り、行事の大切さを教えてくれましたし、歌舞伎、能や絵画等に触れる機会も作ってくれました。いいものは長い年月を掛けて繋がっていくことを教えてくれたのです。

父は私に太極拳を教えるとき、質問には答えず、ただ黙って動きを真似しなさいと。時間をかけて自然に身体に馴染んだ太極拳からは心地良さが生まれてきます。良いものだからこそ 20 年、30 年と飽きることなく同じことを繰り返して行けるのです。

良いものは続き、歴史を重ねて、より良くなっていく。歴史を繋いでいくとはこういうことかと思っています。私は楊名時太極拳を、日々の稽古を積み重ね、次の世代に繋げていきたいと思っています。時代が変わり要求されることが変われば発展していきます。しかし大切なことは守り続けて次の世代に引き継いでいくことが大事だと思います。